20211024　　猪高の森自然観察会　2021 年 10 月報告書

猪高の森自然観察だより　10 月号

開催日時：2021年 10 月 24 日（日）　9:30～12:00　　天候：晴後午後曇り
テーマ：森の恵み探し
参加人数・構成：　一般 13 名　（うち NACS-J 指導員 3 名）
コース：森の集会所　→　畑　→　井堀の大クス　→　井堀の棚田　→
　　井堀の大クス　→　森の集会所

気温の変化が激しい月です。半ばの 15 日までは最高が27～29℃の9月中旬の気温、16～18日にかけて最高気温が20℃前後の 11 月中旬の気温、26日頃からやっと23℃前後の平均値、生き物たち（私たちも含めて）も調子を合わせるのに大変でしたでしょう。
観察会当日は風も穏やかな良い観察会日和になりました。（以下の画像は観察会当日の撮影以外ものも含みます）

こんな観察会でした

春から花をさかせていた樹々や草花が実をつけ、種を結ぶ時期です。実は鳥たちの食料となり、運ばれた種で次世代が育ちます。草花も急ぎで種を作り始めています。
旅をするチョウとしてよく知られるアサギマダラが、猪高の森に訪れる時期でもあります。羽の一部に鱗粉がないために、支脈がステンドグラスのように美しく、是非出会いがあって欲しいと思っています。2，000㌔を旅した記録もあるとのことです。

森の集会所の広場では

←クロガネモチの実
「もち」の名は、この樹皮を叩いて潰すと粘りが出て、それを「鳥もち」として棒に付け、鳥を取った事からついたとか。モチノキも同じような名の由来との事です。

センダンも実をつけ始めています。横に切ると五芒星（ごぼうせい）の形に見える変わった実は冬の大事な鳥の食料です。熟すまでにはもう少しかかります。

畑にて

入り口にシャクチリソバ（赤地利蕎麦）の白い花が咲いていました。拡大すると**おしべは濃いピンク。**なかなかの美しい花です。自然観察では、拡大すると意外な美しさを発見する事が多く

あります。虫眼鏡は必携のアイテムです。他にミツバアケビとカキの実もありました。

←シャクチリソバ（花の拡大図）

シャチクリソバは、そば粉を作るソバの仲間ですが、宿根性で冬でも根が残り、翌年も枯れずに生えて来ます。

実もソバと同じように利用できますが、苦みが強く、タネを利用するよりは、野菜として若葉を食べることが多いので「野菜そば」と言われる事が多いとか・・。

（左上は全体の画像）

右はミツバアケビの実。割れた実の中に黒い種が見えますがこれは貴重な画像、まずは皮だけで、中身がなくなっています。鳥や獣に先に食べられてしまいます。

種の回りのゼリー状の果肉はほんのり甘い味がします。

左はカキの実。熟して甘くなったものから生き物たちの食料になります。

棚田までの途中にて

ヤブミョウガの黒い実の中にある「穴の空いた種」を観察しながら、樹齢 250～300 年と言われる（まだ、正確には測られていない）井堀大クスを通り、しばらく進むと、出会いがありました。

セイタカアワダチソウの花に止まるアサギマダラの♀（左・10/15に撮影）と♂（右）

翅のある、目的の虫たちに出会えるのは本当にラッキーな出来事です。アサギマダラは本来はヒヨドリバナに良く来るチョウです（訳ありで♂です）が、この時期には、花が終わっていましたので、セイタカアワダチソウに飛来していました。

（♂が成熟するのにはヒヨドリバナの蜜の成分が必要との事です。）

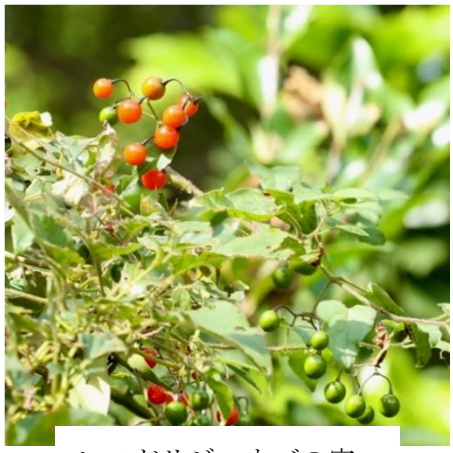
ところで、上の画像で♂と♀の違いがわかりますか？ヒントは後翅です。

（左と中）はイヌツゲにいたコエビガラスズメ。紫色のストライプが美しいスズメガの幼虫。大きさは 7.5 ㎝ほど。（右）はカラスザンショウにいたナミアゲハの幼虫です。

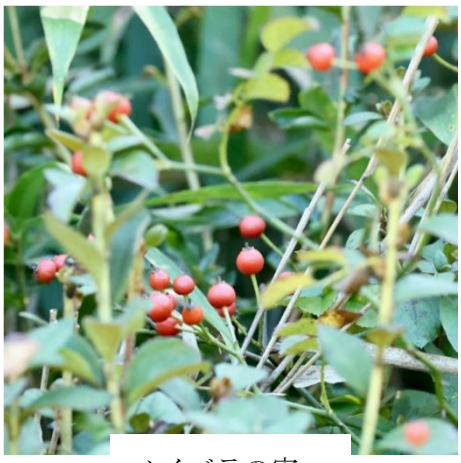
スズメガもアゲハも蛹（さなぎ）で冬越しをする種類です。この時期に、こんな姿でよいのか、蛹になっていなくてよいのか、天候がおかしいせいなのか、と心配になります。

木の実・草の実・ひっつき虫

この時期には、今回テーマの通り、実りが沢山あります。



ヒヨドリジョウゴの実



ノイバラの実

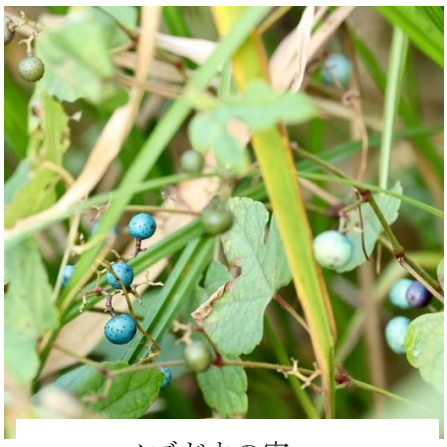
ウメモドキの実

ガマズミの仲間の実

秋には赤い実を付ける草や木が沢山あります。1頁目のクロガネモチの実をはじめ、ご存知の庭木のナンテンやアオキなどもそうです。ではなぜ、その実たちは同じような大きさをし、赤い色なのでしょう？

答えは、鳥たちに食べられて運んで欲しいからです。実を食害する虫たちには赤色は判別出来ません。これもまた、長い時の間に植物たちが、培ったノウハウなのでしょう。

サワフタギの実
ブルーの色が美しい！
燃やした灰を染色時に使ったためニシゴリ（錦織）の別名もあります。

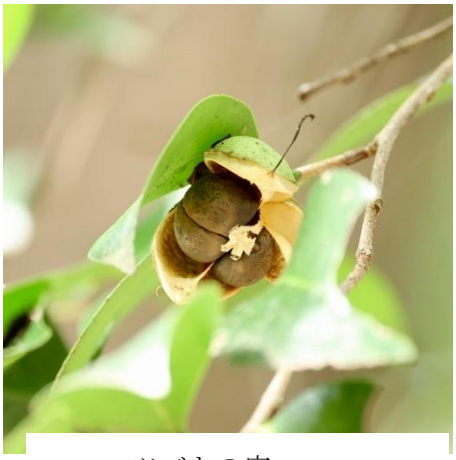


ノブドウの実
熟すと空色や紫、白などの多彩な色の果実を付けます。残念ながら、食べられません。

イシミカワの実
これもまた美しいブルーの実。取ろうとする時はご注意ください。つるはトゲトゲです。

コナラの実
救荒植物として食べられ、昔の遺跡からも出土があります。

イヌツゲの実
虫こぶが付いていることもあります。



ツバキの実
椿油はのぞいている茶色の種から取ります。

ヤマノイモのむかご
ご飯に炊き込んだ方も・・。
種とはまた別の増え方です。

スズメウリの実
若い実はキュウリの味！
未経験の方には味わって頂きました。

コバノカモメヅルの実
９月に花が咲いていました。
実が見られるのは珍しい花です。（右上は花の画像）

ツルマメの実
ダイズの原種とされています。食べた方によると、同じ味がするとの事です。

クサネムの実
よく似たカワラケツメイの実はさやが立ちますがこれは垂れ下がります。
（右上は花の画像）

ツリガネニンジンの実
先月には花が咲いていました。
（右上は花の画像）

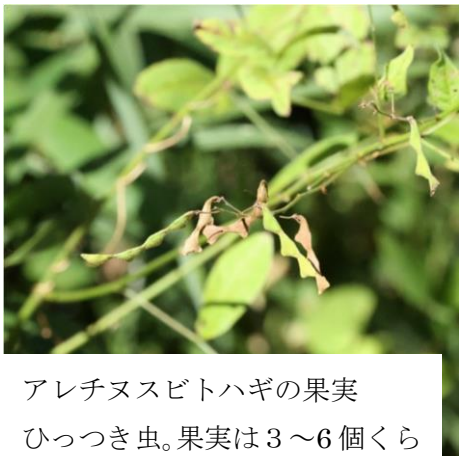
カキツバタのはじけた莢
ハナショウブを始めとするアイリスの仲間はこんな莢を作ります。（右上ははじける前）

スイカズラの実
別名はキンギンカ（金銀花）熟すと黒くなります。花（5 月）は良い香りがします。（右上は花の画像）

アメリカミズキンバイの莢
湿ったところで、よくみられます。花は 4 弁の黄色です。外来種。（右上は花の画像）

コセンダングサの花と果実
ひっつき虫。花は黄色の筒状花のみ。熱帯アメリカ原産。

ヌスビトハギの果実
ひっつき虫。果実は 2 個 1 組で、盗人がこっそり歩く足の形に見立てたとの事。在来種。



アレチヌスビトハギの果実
ひっつき虫。果実は 3 ～6 個くらいに分かれます。北アメリカ原産。

チヂミザサの小穂
ひっつき虫。芒（のぎ）は成熟すると粘液を出して衣服などに付きます。

ヒカゲイノコヅチの果実
ひっつき虫。下向きの果実にある小苞でくっつきます。

キンミズヒキの果実
ひっつき虫。夏に黄色の花を咲かせます。果実にあるかぎ状のとげで、くっつきます。

９月～10 月にかけては、虫たちも多く猪高の森では見られます。カメムシやトンボなど注意して見ると、中々多彩です。

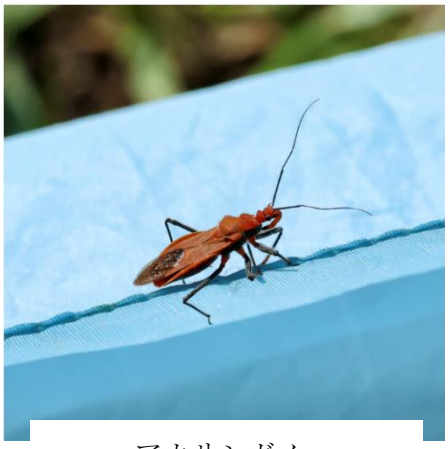
ムラサキシラホシカメムシ
まるで紋付をきているよう。

マルカメムシ（左：成虫、右：幼虫）
一番身近（？）なカメムシのひとつ。洗濯物につくとちょっと困る。

ツヤアオカメシ

ホウズキカメムシ

ホシハラビロヘリカメムシ



アカサシガメ
持つ時はちょっと注意！
口吻で刺されます。

クモヘリカメムシ
こんなスマートなカメムシもいます。

チャバネアオカメムシ
この種類も身近なひとつ。

クサギカメムシ
これもよく見る種類です。

ホソヘリカメムシ
細長いカメムシにも色々な種類がいます。

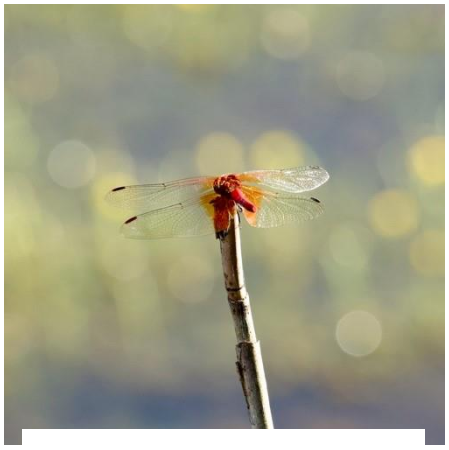
カメムシは、臭いイメージが強い昆虫ですが、臭くない種類もいますし、臭さの程度も様々です。
　種類がとても多いので、調べることが楽しい種類でもあります。
　お試しあれ！

ヒメアカネ♂

リスアカネ♂

マユタテアカネ♂

上の 3 種はアカトンボの仲間と言われる種類です。よく知られている「アキアカネ」もアカトンボの仲間で羽や胸部側面の模様、顔（？）の表情などで区別をします。次頁のショウジョウトンボは赤いトンボですが、別の仲間になります。まあ、これは分類上の区別ですので、知識としてご存知であればよいでしょう。



ショウジョウトンボ
これだけ赤いのにアカトンボの仲間ではないなんて！

オオアオイトトンボ
（左）は♀、（右）は♂、種類にもよりますが、
イトトンボの仲間も 10 月にはまだ健在です。

←交尾をするアキアカネ
　夏に避暑をし、秋には群れとなって里におりてくるトンボとして知られているアキアカネですが、農薬のネオニコチノイドの影響で激減しているとされています。
（これは、10/24 に撮影された貴重な画像です）

ヒメアカタテハ
成虫で冬越します。

稲刈りの終わった棚田

チョウセンカマキリの卵

まだまだ、いっぱいの自然があります。
一緒に歩きませんか？

次回の自然観察会は
　11 月 28 日（日）　9：30～
　　森の集会所集合です
　テーマは「冬の準備をする生き物たち」　です。